

# 平成25年度 産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業 成果報告会

2014年3月5日

国立大学法人名古屋大学



## 1. 大学の経営活動における本事業の位置づけ

### 【産学連携に関する目標】

#### 名古屋大学学術憲章

「社会的貢献」 立地する地域社会の特性を生かし、多面的な学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する

「研究教育体制」 活発な情報発信と人的交流、および国内外の諸機関との連携によって、学術分野の国際的な拠点を形成する

#### 濱口プラン(大学の運営指針)

「地域連携・地域貢献の推進」

産学官連携の推進・拠点形成・イノベーション創出の推進

### 【評価モデル、実証事業の目標・課題】

本学における現状での産学連携は、製造業との連携による「ものづくり分野」が多くを占めている。一方、「ICT分野」においては、ヒューマンデータ、ロケーションデータ、およびスマートインフラデータ等の各種ビッグデータ利活用により、今後の大きな発展が期待されている。

よって、新たなビジネス創出に繋がる「ICT分野」を対象にした評価指標を設定し、モデル実証事業を通じて、効果的な産学連携効果の評価手法の確立を目指す。

また、上記評価指標の構築に向けては、今後の活動においてPDCAサイクルを実施し、様々な角度から検討を加え、より適切な評価指標構築にむけて検討を継続していく必要がある。

## 2. 評価モデル構築事業の概要と成果

### 【「ICT分野」評価として、新たに設定した評価指標】

評価観点	評価軸	評価項目	評価項目の詳細	対応する指標	指標の狙い
イノベーションの創出	技術移転	技術移転活動の有効性	大学発の技術を利用したビジネス展開や、発明評価の技術移転活動がどの程度有効に実施されているのか。	NPO法人やコンソーシアムの会員数 (注) NPO法人やコンソーシアムの会員数 / 法人数およびコンソーシアム数	コンソーシアム等が、どの程度規模としての広がりや有効性を評価
			技術移転活動により、大学発の技術が一般市民が日常生活においてどの程度活用し、アウトカムに繋がっているか。	対象アプリ・コンテンツ数	コンソーシアムあたり、どの程度の会員数が含まれるかを有効性として評価
			技術移転活動のアウトカムへの繋がり	アプリ・コンテンツ等のダウンロード数 アプリ・コンテンツ等のダウンロード数 / 対応アプリ・コンテンツ数	連携によって開発・実証の対象としたアプリ・コンテンツ等がどの程度あるかを有効性を評価
		地域における産学連携活動の有効性	連携事業（イベント）の実施件数 連携事業（イベント）の延べ日数 連携事業（イベント）の参加者数	成果としてどの程度DLされているか、アウトカムへの繋がりを評価	
		地域における産学連携活動のアウトカムへの繋がり	アプリ・コンテンツ等（1日当たり）利用者数 アプリ・コンテンツ等（1日当たり）利用者数 / 対応アプリ・コンテンツ数	連携によるアウトカムへの繋がりを評価	
		地域における産学連携活動のアウトカムへの繋がり	売上額 / 対応アプリ・コンテンツ数 データ更新量（パケット量） / 対応アプリ・コンテンツ数	成果としてどの程度DLされているか、アウトカムへの繋がりを評価	
	地域経済活動への貢献	地域における産学連携活動の有効性	大学発の技術展開が、地域活性化のためにどの程度有効に行われているか。	連携事業（イベント）におけるアプリ・コンテンツDL数 連携事業（イベント）におけるアプリ・コンテンツ利用者数	連携事業がどの程度実施されたかを有効性として評価
			大学発の技術の展開が、地域活性化のためのアウトカムにどの程度アウトカムに繋がっているか。	連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ利用者数 連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ売り上げ総額	連携事業が、どの程度の時間軸で実施されたかを有効性として評価
			大学発の技術の展開が、地域活性化のためのアウトカムにどの程度アウトカムに繋がっているか。	連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ利用者数 連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ売り上げ総額	連携事業を通しての参加者数を有効性として評価
		地域における産学連携活動のアウトカムへの繋がり	大学発の技術の展開が、地域活性化のためのアウトカムにどの程度アウトカムに繋がっているか。	連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ利用者数 連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ売り上げ総額	連携事業を通してのDL数を、連携事業におけるアウトカムへの繋がりと評価
			大学発の技術の展開が、地域活性化のためのアウトカムにどの程度アウトカムに繋がっているか。	連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ利用者数 連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ売り上げ総額	連携事業を通しての利用者数を、連携事業におけるアウトカムへの繋がりと評価
			大学発の技術の展開が、地域活性化のためのアウトカムにどの程度アウトカムに繋がっているか。	連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ利用者数 連携事業（イベント）を通してのアプリ・コンテンツ売り上げ総額	連携事業を通しての売り上げ総額を、連携事業におけるアウトカムへの繋がりと評価

(注) 黄色枠は進捗報告時（12/12）に記載の評価指標

ビッグデータ活用など「ICT分野」の評価として上記指標を掲げ、実証事業を通じての検証を行うと共に、他大学におけるビッグデータ関連の産学連携事例について調査を実施

現行の評価制度に上記追加指標も加えた上で、新たに構築する評価制度としての妥当性を整理、および指標データの管理が可能な「評価ツール」の整備を今後進める予定である

## 3. 構築した評価制度や制度改革の課題と今後の展望

### 【産学連携改革の取り組み】 評価制度の構築、産学連携の改革として下記施策を進めている

取り組みの内容	成果
<b>産学官連携推進体制</b> (運用開始)	従来、競争的資金や受託・共同研究支援を複数の研究活動支援組織にて担当してきたが、基礎研究領域でも産学連携が進み、両者境界が不鮮明になってきており、各部門を総合した新組織として26年1月から運用開始。
<b>社会科学との連携</b> (運用開始)	複雑化する社会課題に対応するため「社会イノベーションデザイン学センター」を設置。課題解決手段の実装を目指し、技術および制度的見地より社会ニーズの抽出およびプロトタイプを繰り返し、社会イノベーションのプロセスデザインを実施。その足場となる社会科学との連携体制を構築中である。
<b>産学協同研究講座設立</b> (運用開始)	企業研究者を中心にした研究組織をキャンパス内に設置することで、産学連携による研究の方針判断や成果管理などの企業イニシアティブを発揮する制度として「産学協同研究講座・部門」を新設し、昨年4月より公式に運用。
<b>ICT分野における評価指標の確立</b> (実証事業での取り組み中)	活動成果を正確に評価する「追加指標」の設定を行い、実証事業を通じてのデータ取得・詳細解析と、今後の課題抽出に向けて取り組んでいる。
<b>【今後に向けて】</b>	さらに産学連携推進の機能強化を図るために、新たな産学官連携拠点を建設中であり、アンダーワンルーフで活動を開始する予定である。(H27年4月)

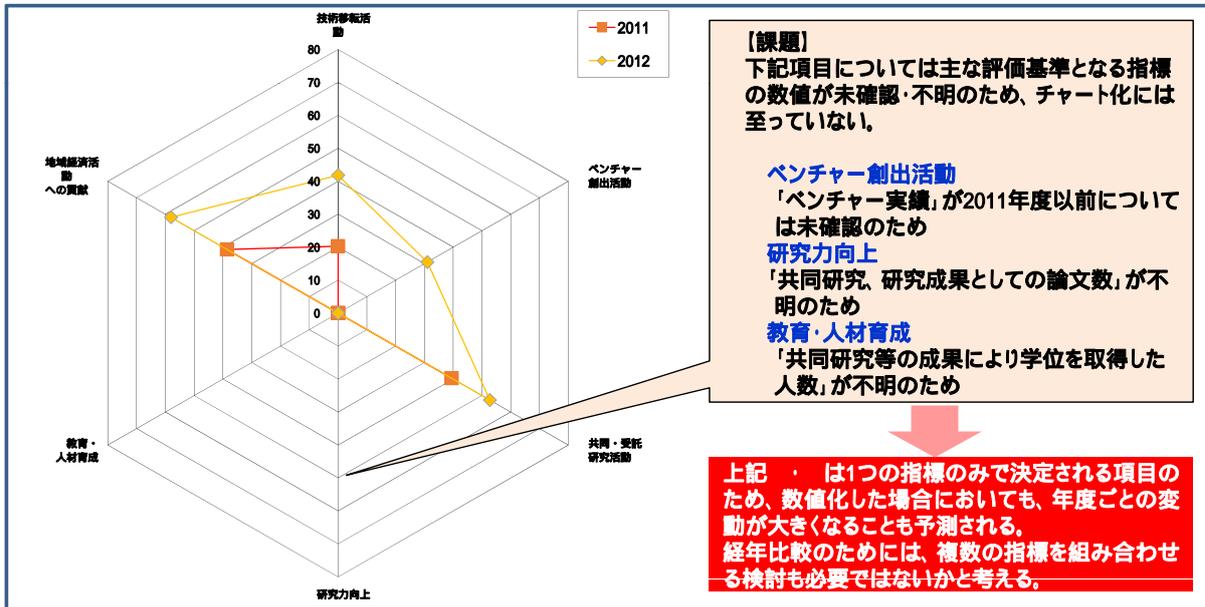
産学連携における上記 ~ 項目の貢献イメージ



## 4. 実証事業の対象となった産学連携による研究活動の成果

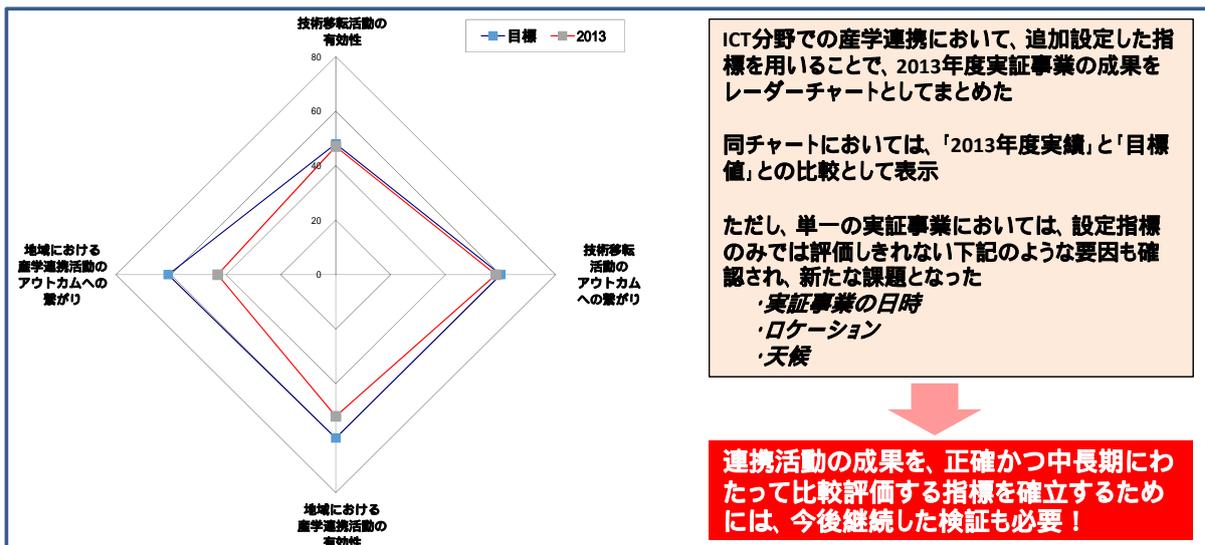
### 【標準指標における評価結果】

産学連携の「標準指標」に関しては2011-12年度を数値化し、今回開発した評価ツールを用いてレーダーチャート化を実施(下図)。ただし、実績が未確認の評価指標項目も一部あったため、項目 ~ 全体を評価するには課題が残った。



### 【新規指標における評価結果】

「追加指標」もチャート化実施(下図)、ただし正確な評価には今後の継続した検証が必要



### 【まとめ】

ICT分野における産学連携成果を評価するための「指標」を設定し、実証事業を通じて実績の定量化・見える化に繋がったことは成果と考えられる。ただし「指標」が連携成果を正確に評価する上で十分であるとは言い切れず、課題が残った。また標準指標についても、一部指標の設定においては検討課題があるものとする。単年の実証事業での指標評価では限界があり、正確な評価には継続的な検証が必要となる。